

大竹さんのとある1日

8:00-8:30 起床

8:30-10:30

家の掃除・庭の草刈り
チェックアウトの対応

10:30-12:00

コーヒーを淹れて事務作業
や読書

12:00-14:00

ランチ
買い物・夕食の準備

14:00-16:00

チェックインのための
最終準備や掃除

16:00-18:00

チェックイン対応
お客さんと夕日を
見に行ったり、散歩をしたり



△シンリ浜の夕日を見る

18:00

夕食
お客さんと一緒に
食べることも



△友人と夕食の準備

23:00 就寝



△想生オープン



△島の自然の中でコーヒーを飲む
※宿泊客がない日はホテル
等で調理スタッフの仕事も

先輩移住者①

沖縄古民家の宿

「想生 -sou-」

大竹 太平さん

地域おこし
協力隊

古民家

地域貢献

移住のきっかけは？ 地域おこし協力隊って？

移住前は東京の大学生でした。周りが就職活動していく中で、皆と同じように就職して暮らしていくイメージがわからなくて。もともと海を眺めている時間が好きで離島に一回住んでみたいと思ったのが最初でした。当時学生だったので、自治体と地域に関わる仕事ができる地域おこし協力隊の制度をいいなと思いました。「協力隊・離島」で探していく中で、久米島があったという感じです。協力隊では受け入れる側が色々相談相手になってくれたのが大きかったですね。

古民家暮らしって どんな感じ？

移住3年目に縁があってこの古民家に住み始めました。本当にタイムリングでした。ここで民泊をやっています。家のお気に入りスポットは緑側で、日々の中でぼんやり過ごす時間もとるようにしています。家に友達を招いてご飯を

食べるのが大好きで、島の食材を使った料理を作ったり、友達と釣ってきた魚と一緒に食べたりよくします。そういう時間はすごく豊かだと思いますね。

地域貢献について

久米島の中でも移住者が少ない地域に住んでいるので、若手として行事など参加できるところはなるべく積極的に参加しています。近々この地域で棒術のイベントが行われ、運営プラス出演もするので棒の演舞の練習をしているところです。

久米島の魅力は？

小さい島なので何かやりたい時に自分からアクションを起こせば、それがちゃんと形になっていくというのはすごくあるなと思います。あとは「不便を楽しめる」のも島の良さ。生バスタが食べたいと思ったら自分で作ったり、必要なのはDIYで作ったり。今は自分が都会で暮らすことは想像ができないし、もっともっと久米島のことを知りたいと思います。

プロフィール

大竹 太平(20代)

2018年、地域おこし協力隊として埼玉から久米島へ移住。その後島に定住し古民家ゲストハウス「想生 -sou-」をスタート。温かな雰囲気古民家の宿として島内外にファンが多い。



△地域の代表としてまつりに参加

移住する方へメッセージ

久米島はなんといっても大自然と人が一番の魅力。移住にあたり不安なこともあると思いますが、いつでもうちの民泊に相談にきてください。



△休日はSUPを楽しむことも

先輩移住者②

出産・子育て

島ぐらしを楽しむ

佐藤ファミリー

出産

子育て

島ぐらし

島内企業

就職

移住のきっかけ 実際に住んでみて

ずっと、きれいな海が見えるところに住みたいという夢があって、子どもが小学校に入る時に今しかないと思移しました。ネットで探中で久米島に出会い、島コンの移住体験に参加したのが決め手。娘も気に入ってくれて、実際来てみたら、漫画みたいなきれいな海ってあるんだって思いました。雲や星も感動レベルで毎日幸せです。

島での就職どうだった？

島に住み始めてから紹介で今の職場に夫婦で就職しました。家族みたいなよい会社です。会社に赤ちゃんを連れて行ってもいいし、野菜をもらうこともあります(笑)。久米島は都会と比べてしまうと給与は高いとは言えないと思います。ただ都会にはないよい面もたくさんあり、夫婦で働くことでやっていけています。

島での妊娠出産 どうだった？

島では出産ができないので、沖縄本島で病院を探しました。家族が立ち会える助産院を選び、幸せな出産ができました。島には常駐の産婦人科医がいなかったので妊娠中に不安はありましたが、助産師と密に連絡を取り合いました。

島での子育て

娘は学校から帰ってくるとランドセルを置いて「いってきまーす」って遊びに出かけていきます。子どもが自分で自由に動けるのはいいですね。学校は少人数なので教科によっては複式学級です。保育園から高校まで島の中で完結できる環境が整っています。

久米島の魅力は？

島で暮らしてみようと思うのは、人との距離が近くて、昔の日本みたいに人が温かいということです。離島だからいいものもたくさんありますが、何もないからこそ小さな幸せに気づけることも多

いです。島へお返しがしたくて私たちができることをしようと、島の情報をブログやインスタで発信しています。島が好きすぎて、来てから一度も地元に戻ってないです。

プロフィール

佐藤隆紀(40代)・亜美(30代) 長女10歳、長男4ヶ月の4人暮らし。地元群馬を離れ2020年、一家で移住。(株)未来ステーション久米島勤務。夫婦で「久米島うまなちゅブログ」を運営。島民ならではの視点で発信する情報で人気を博している。



移住する人へメッセージ

まずは来てみて島を体感してください。困ったことがあったら気軽に相談してくださいね。

佐藤さんのとある1日

起床 6:30

夫は庭の草刈り、妻は長男を見ながら家族の朝食作り

7:30

娘が小学校へ登校、家族で見送る



△朝の送迎

8:15

夫が出勤、妻は家事と育児をしながら在宅ワーク

16:00

夫婦宅



△帰家後の団らん

17:30

娘の習い事の送迎へ

18:30

娘を迎えに行き、海辺で家族でサンセットタイム

19:00

交代でお風呂に入りながら夫婦で夕食の支度



△夕食づくり

19:30

夕食

20:00

宿題の丸つけ

21:00

子ども就寝、家事や仕事を終る



△夫婦それぞれでデスクワーク

24:00

夫婦就寝